

02 特集

大音で学ぶミュージカル
単調な繰り返しの
中にしか「進歩」はない
羽鳥 三実広教授

04 音楽と生きる

下村 陽子 さん(作曲家)
斉藤 美穂 さん(舞台監督)

新年度へ
カウント
ダウン!

今年は誰に
チョコあげよ
うかな……

次号も
楽しみだな!

今度はどんな
1年生が来る
かな??

1 2013
January

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
		1	2	3	4	5
冬休み						
6	7 授業 スタート!	8	9	10	11	12
13 電子オルガン コース・ コンサート「フライングライブ2013」	14 成人の日 (休業日) 卒業会コンサート	15	16	17	18	19
20	21 後期授業 最終日	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2 2013
February

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17 学生オペラ	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

3 2013
March

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25 卒業式	26	27	28	29	30

CONTENTS

08 Concert Report
イル・カンピエッロ 他

10 NEWS Index
・大学祭・研究室訪問
・Daion Report
・大音生なら必ず聴きたい「100曲」中村孝義
(理事長・教授) 他

13 キラリ★輝く
大音の星
・コンクール受賞
・NEW リリース

14 CAMPUS
Information

15 演奏会
Information
12月～4月

16 ・下手の考え
休むに似たり
～学長日記～
・教員ルーエッセイ
高 昌帥
(作曲・准教授)

芝居の世界で食べていく できる限りのことをした

Q ミュージカルを志した
きっかけを教えてください。

大学時代は将来を模索していました。今の学生たちと同じようにね。高校時代はバスケットボール一筋で、インターハイにも出たくらいだったんだけど、将来スポーツの世界で生きていくのは無理だと自分ですでにわかっていました。でも何かやりたい。お芝居を観るのは好きだったので「演劇ってどうだろう」とはなんとなく思っていました。そんな大学3年の冬、たまたま観た劇団四季のお芝居に衝撃を受けてしまったんです。もう本当に打ちのめされました。「これはすごいな」と。もうこれしかないという感じで研究所の試験を受けてみたらなんとか採ってもらえたんです。

Q 劇団ではどんな練習を？

歌も踊りも芝居も僕は劣等生。だけど絶対にこの世界で食べていきたいかった。クビにならないようなんとか食いついていくしかないで、あらゆる努力はしましたね。自分が出演しないチケットも人一倍売るし、ほかの人の何倍もの時間を練習に費やしました。僕はスポーツをやっていたので、毎日毎日反復練習をするというのはむしろ当たり前。そういう

さまが来てなんぼなんです。だからお客さまに観てもらえるだけの芸を磨く。これしかありません。一般社会人にも共通する理念だと思います。

Q 具体的には？

お芝居の基本の一つが「発声」です。まずは立つて声を出すこと。ピアニストが指だけでなく、体全体で演奏するように、役者も体全体で発声し、表現していかなければならない。その表現の「息」に明晰な言葉が乗るんです。言葉はストーリーを伝えるための重要な要素。何の物語かわからなかったらお芝居は成り立たない。だから言葉を伝える技術を身に付けるためにも、発声を毎日練習するしかないんです。

またミュージカルには「歌」が重要です。歌が歌えなければミュージカルはできない。だから歌の練習も必要。踊りもそう。練習は毎日することが重要です。この「毎日の反復練習をつまらな」と感じる人もいるかもしれませんが、どれだけこのつまらない練習を続けていくことができるか、つらいと思うならどうすればいいのか、を学んでいただきたいと思います。繰り返しのうちにこそ進歩がある。自分で道を切り開いていくことのできる人間はどんな世界でも通用します。

う劇団のポリシーも自分にフィットしたのですね。それから若手の演技指導も担当するようになり、なんとか20代後半には食べられるようにはなっていました。最初に10万円のお給料をもらった時のことはいまだに忘れられません。やっと認められたなど。その後は俳優と兼業で演出助手だけでなく、台本も書かせてもらえるようになって、本当に有意義な劇団時代でした。

お客さまに納得してもらって そのために芸を磨く

Q 大音でミュージカルを指導することについていかがですか？

「大学で音楽を通じて身に付けた力は、社会人となっても生きる」という、大音が掲げる教育理念の一つが我が意を得たりで、共感しました。本来大学というのは「研究」と「学問」の場ですが、現実として社会人養成所でもあります。卒業したら社会に出なければならぬ学生たちにとって、一番大切なのは「断の努力をいとわぬ習慣をつける」こと。単調な繰り返し練習の中にしか進歩はないんです。来る日も来る日も練習をする。舞台はお客さまにお金を払って観にきてもらわないと成立しないのですから、お客さまが納得する作品を作らないといけない。自分たちの満足のためにやるものではなく、お客

次の目標を作ることで 前に進むことができる

Q これから大音でミュージカルを
学びたい人へメッセージを。

「ミュージカルが好き」ならミュージカルの勉強に没頭する2年間は、本当に価値あるものになると思います。大学は就職するためだけの準備期間ではない。もちろん社会に出たら働かなくてはなりませんが、学生時代、自分のやりたいことに1度は思い切り取り組んでみる。そして自分がやっていることに責任を持つ。そうすることで「自分」が見えてきます。もしかしたらミュージカルには向いていない、と判断することになるのかもしれない。それでもいいじゃないですか。自分を知った上で改めてミュージカルが好きだ、やりたいんだ、と思うのなら邁進するしかない。

僕は夢」という言葉をあまり使わない。「目標」を持つことが大切なんです。「もうちょっと高く足を上げられるようになりたい」「あと半音高い声を出せるようになりたい」など近い目標をたくさん持つ。目標はどんどん変更してもいい。小さな目標。大きな目標を定めて自分で道を作っていく。僕自身はそうやってきました。落ち込むことがあったとしても次の目標を作ることでまた前に進める。実際のところ目標が次々にできるから、落ち込んでいるヒマはないんですけどね(笑)

特集 大音で学ぶミュージカル

単調な繰り返しのの中にしか「進歩」はない その「努力の仕方」を伝えるのが 僕の使命です

ミュージカル・コース教育主任が大音で学ぶための心構えを伝授します。

2012年度
大阪音楽大学短期大学部
ミュージカルコース第2回試演会
日時:2013年2月21日(木)
18:00 ~
場所:ミレニアムホール
入場料:無料
お問い合わせ:06-6334-2242
(大阪音楽大学コンサート・センター)
※詳しくは大阪音楽大学HPをご覧ください。

羽鳥塾(横浜市青葉区)

「我々は『実りある豊かな精神生活を創造する演劇』の担い手として、俳優を育て、作品を作り上げていく創造集団『シアタープロジェクト羽鳥』を設立し、演劇を通じて社会に貢献するものである」の理念のもと2006年に活動を開始。写真は現在の羽鳥塾スタジオ。広さは70㎡で一面が鏡張り、ナラの無垢板の床で窓は二重ガラスになっています。こちらではミュージカルクラスと演技クラスが行われ、年齢も経歴もさまざまな生徒たちが通っています。



▲とある授業での一場面。細部にわたって神経を張り巡らせ、芝居を作り上げていく

羽鳥 三実広 教授

はとり みちひろ ● 1955年生まれ。慶応大学商学部卒。シアタープロジェクト羽鳥代表。脚本家、演出家、演技トレーナー。27年間にわたる劇団四季在籍中、俳優として3000回以上の舞台に立つ。演出助手、脚本執筆、演技教師も兼務。ミュージカル「異国の丘」は浅利氏の共著。現在、横浜にてプロ・アマを問わず演技指導を行う「羽鳥塾」を主宰。主な脚本、作詞、演出作品に、「ソロ・ミュージカル YAKUMO」(2004年)「ファンタジーミュージカル 夜物語」(2009年、2010年)「ミュージカル 孤児マリア」(2012年)がある。

下村 陽子

作曲家

曲作りはあくまでも 「ゲーム」のために

作曲の作業は、思いついた順番で曲を組み立てていきます。五線譜は使わず、ひたすらパソコンに打ち込んでいく。外出中など近くにパソコンがない場合は手帳に思いついたメロディを書きとめておいたり、携帯電話のボイスレコーダー機能に鼻歌で口ずさんだものを録音しておいたりする時もあります。最近ほとんどパソコンですね。仕事は正直速い方ではないので、悩んだり煮詰まったりするとなかなか作業が進みません。それでも締め切りがありますから、気持ち乗ってきたタイミングで一気に集中して曲を書き上げます。

ゲーム音楽はあくまでもゲームありきなので、ストーリーや絵がある上での世界観から、インスピレーションを得て曲を作ります。私自身もともとゲームが好きなので、ゲームをする人の立場に立って「どのような音楽がふさわしいか」を常に考えます。例えば、戦闘シーンの時は気持ちよく乗れるか、悲しい場面ではより悲しい思いになれるか。まずはユーザーさんの気持ちを一番に考えますね。

でも、そこには「自分らしさ」もないといけない。「このゲームの音楽を作るのは下村陽子しかない」と言ってもらえるような曲作りをしていきたいと思っています。「ゲームで遊んでいるとCDが欲しくなる。C

常に意識のどこかで 「作曲」が気になっていた

なって仕方がない。あきらめきれなかったので「受けてダメでも、受けないであとで後悔するよりマシ」と思い、ダメもとで受けてみることにしました。面接では「私は絶対この仕事に向いていると思います」と、とにかく自己アピールしました。そうするとなんと採用！作曲は、短大の授業で基礎を勉強したぐらいだったので、入ってから大変な苦労が待っているのですが、ここからが私の作曲家人生の始まりでした。

サウンドクリエイター（作曲と効果音制作）として採用されたのですが、会社では決まった時間に出社し、月給をいただく「会社員」という形のサラリーマン作曲家でした。入社当時はパソコンなんて触ったこともなかったですし、「シーケンサー」という曲を作るためのソフトは名前さえ聞いたこともなかったんです。今でこそ笑い話にできますが、当時は本当に何もかも必死でした。それまで作曲を専門的に勉強した

Dを聴いているとゲームがやりたくなる」。私にとってはそんな関係がベストです。

どうしても あきらめきれずに 受けた「ゲームメーカー」

従姉がやっていたから、という理由で5歳の頃からピアノを習いに行っていました。家には音楽好きの父が集めたレコードがたくさんあり、それを聴いているうちになんとなく将来は音楽の道に進みたい、と思うようになっていました。音楽好きが高じて、高校生の頃には吹奏楽部でフルートを吹いたり、指揮を習いに行ったりしていました。短大のピアノコースに入學してからも授業はとれるだけ目一杯とって、かなり忙しい学生生活を送っていました。

そんな学生時代ですから、おのずと将来は音楽に関係する仕事をしたいと思っています。卒業する頃にはピアノ教室での講師の内定もいただいていたんですが、就職課に貼ってあったゲームメーカーからの作曲家募集の求人がどうしても気になっていました。悩んだ末、大学に相談してみたのですが、ゲームの作曲はこれまで作曲専攻の人しか入っていないということ。でも気になって気に

ことはなかった私ですが、習っていた指揮の先生に作った曲を見ていただいたら「君は指揮もいけど作曲をやった方がいいよ」と言われたことも。高校の授業で作曲の課題があった時に、とても個性的だと言われたこともあり、自分には作曲ができると思っています。自分には作曲ができることか「作曲をやってみよう」という思いは常にあったのかもしれない。

在学生の皆さんは、卒業後に音楽を続けていくのかどうか悩んでいる方も多いことと思います。まず絶対に音楽で食べていきたいのか、それとも趣味でもいいから音楽を続けたいのか、そこをしっかり考える。音楽で身を立てたいと思うなら、今の世の中、道は厳しいけれども誰にでもチャンスはある、と言えるのではないでしょう。今は自宅で簡単に録音もできるし、インターネットで世界中に発信することができる。昔はレコード会社からじゃないと出版できなかったものも、今は誰でも自分で作って売ることできる。知り合いにはイベントでCDを売って、それで生活している人もいますよ。それって私が学生だった頃には考えられなかったすごいことですよ。もちろんそうなるまでには大変な努力が必要です。でも後悔する生き方だけはしてほしくないなって思います。ぜひ充実した大学生を送ってください。



【協力：STUDIO SHANGRI-LA】



◀自宅スタジオ

下村さんの曲が演奏されたコンサート(2012年)



▲10月7日 VGO Concert at Boston Symphony Hall



▲7月5～6日 Symphonic Fantasies at Kölner Philharmonie (Photo by Philippe Ramekers)



▲9月23日 PRESS START at Bunkamura オーチャードホール



KINGDOM HEARTS 10th Anniversary FAN SELECTION-Melodies&Memories-(2枚組・スクウェア・エニックス)
©2008 SQUARE ENIX CO.,LTD. All Rights Reserved. ©Disney.



dramatica -The Very Best of Yoko Shimomura- (スクウェア・エニックス)

下村さんのCD

下村さんが作曲を手がけた ゲームタイトル

- 「ストリートファイター II」
 - 「スーパーマリオ RPG」
 - 「聖剣伝説 -LEGEND OF MANA-」
 - 「マリオ&ルイージRPG」シリーズ
 - 「キングダム ハーツ」シリーズ
- ほか多数

●しもむら ようこ
大阪音楽大学短期大学部 ピアノコース卒。株式会社カプコン、株式会社スクウェア（現・株式会社スクウェア・エニックス）を経て、現在フリーランスの作曲家として活動中。幅広いジャンルをこなし、その中でも特に、メロディアスで切ない曲、激しくドラマティックな曲に定評がある。



齊藤 美穂

舞台監督



『たくさんの方の手』思い』で動いている そのことを「知った瞬間」が 舞台監督への道の始まり

的確な判断と対処を要する 「舞台監督」という仕事

具体的な造形物を作ることのない舞台監督の仕事の説明するのは、大変難しいことです。演出家のプレゼンテーションから始まり、公演の終了までに起こるさまざまな局面で、舞台監督

督としての必要不可欠な行動は多岐にわたり、その根底には常に「作品のいのちを守り」「危険認識と安全性の保持」という大きな役割があります。このライン上に舞台スタッフ、出演者、劇場関係者を集結させ、つなぐという求心力としての役目が常に求められます。進むべき方向性を明確に指し示

ランプの合図で、 一斉に舞台が動いた！

小さい頃から歌を歌うことが好き。両親の理解のもと小学生の時から音楽を習っていました。大音の音楽専攻に入学したばかりのある日、オペラ研究部の先輩方が「オペラの稽古に行く」というので、先輩方にくっついて初めてプロのオペラの現場に立ち入

りました。この時「君、スコア読めるよね？」。だったらアルバイトしない？」と声をかけられたのが、この世界へ足を踏み入れたきっかけでした。

最初に与えられたのは、スコアを見ながら音楽の進行に合わせてサインランプを点けたり消したりする仕事。後になって気づいたのですが、それは舞台監督のスコアでした。舞台の裏では、私のランプの合図で大勢の道具さんが一斉に装置を動かします。舞台を客席からしか見たことのない私にはものすごい衝撃でした。「ああ、舞台って人間が動かしているんだ」って。それから、昼は歌の学業、夜はオペラの稽古という生活。無我夢中で両方に取り組んだ約4年間でしたが、まだまだ歌で勉強することがあると思い、裏方は止めて大学院のオペラ研究室に進みました。

大声や命令で人は 動かさせません

裏方の仕事の魅力は「舞台という虚構の世界」であるにも関わらず、嘘の通用しない世界だということ。「いい物はいい、悪い物は悪い」とはつきりと突きつけられるのです。小道具一つ、Q出し一つ、すべてがその公演で起こることに沿っているか否かを即座に判断され、修正を求められる。その気持ち良さで潔さは逆に、突き詰め

れば突き詰めるほど自分をすごく追い込むことも確かです。それでも私はこの世界に身を投じることにしました。舞台作りの行程は苦勞の連続ですが、それが舞台上で昇華する瞬間は最高の喜びです。「仕事は苦し楽しく」を信条にいつも伸び伸びと仕事に邁進し、舞台監督への道を切り開いてきました。

よく「舞台監督は大声を張り上げてああしろこうしろと怒鳴っている人なんですよ」という人がいますが、いえいえ、大声や命令で人は動かさせません。確かに公演に関わる全員にさまざまな指示を出さなければなりません。そこには相手に寄り添う気持ちや、相手の苦勞や困難を理解する能力と繊細さが必要なのです。そういった意味では、この仕事を始めることで「人としての精神修行」も同時に始まったと言っても過言ではありません。今だにそれは続いています。

目の前にある物に 精魂込めて向き合う

在学中に学んだことは多々あります。師である樋本栄先生からは「あなたはいつもそのままでいいさ。ただし、自分の感想や意見をはっきりと言うからは、人並み以上に努力を積み重ねなくてはならない」ということを忘れてはいけませんよ」と教えられま

した。この言葉は今も私の身体に「くさび」となって埋め込まれています。そしてこれは関西人気質もあるかもしれないませんが、キャンパス内で音楽以外の先生方と気楽に会話できたのは、大音ならではのかもしれません。授業を離れ、さまざまな知識と経験を聞いたことは、私の貴重な財産です。

年に一度、仕事で音大生と交流する機会があります。卒業後の自分の進路や将来に不安を抱えた学生たちの声を耳にしますが、順調に音楽家の道を歩んでいらっしゃる先輩方も、その裏でさまざまな不安や葛藤を繰り返しているのです。私自身もそう。でも私は、悩んでいる自分もまた肯定してあげることで頭を整理し、不安を抱えながらもその時に目の前にあるものに対し、精魂込めて向き合うことにしています。悩みとは直接関係なくとも、その自分の態度の中に活路を開く何かがあるのではないかと。自分が何かが向いているのかわからない人は、幼い頃を振り返ってみてください。あなたの心を掴んだ何かの中に小さなヒントがあるのでは？

今の私は同窓生たちの活躍が大変嬉しいです。私が新国立劇場のオペラ「魔笛」の舞台監督をした時に、同級生の松位浩さんがソリストとしてドイツから帰国し共演(?)した時の喜びはひとしおでした。皆さんの活躍を、先輩として応援しております。

●さいとう みほ
大阪音楽大学大学院声楽専攻オペラ研究室修了。舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属。加藤三季夫氏、田原進両氏の元で研鑽を積み、舞台監督として活躍。新国立劇場、藤原歌劇団などさまざまな公演で、連日舞台上を飛び回っている。



▶歌に裏方に大忙しだった大音生時代の斉藤さん

◀仕事中の斉藤さん



2012年10月5日(金) ザ・カレッジ・オペラハウス
ピアノ～華麗なる響きの饗宴～

第二夜 アンサンブルの夕べ

第一夜に続き、たくさんのお客さまにご来場いただきました。前半は連弾、後半は松本昌敏教授と伊賀美樹子さんのオリジナル編曲による管弦楽の作品を演奏。4台のピアノによる8手の連弾では放射状に4台のピアノを配置し、サウンドとビジュアルで迫力の演奏を披露しました。



石原 佐起子、木下 円(ともに短2)



瀧本 晴香、石垣 雅美(ともに大2)



小山 愛里、中尾 愛梨、小山 絵梨(ともに大3)



笹部 真以、塩谷 智栄理、角谷 夏希(ともに大3)



楓 裕衣、橋本 夏希(ともに大3)

2012年11月1日(木) ザ・カレッジ・オペラハウス
大学院定期演奏会2012

大学院生による演奏会。高木日向子さん(2年・作曲)が書き下ろした新作のピアノ研究室4人による発表からスタート。第2部はオペラ研究室による歌劇「蝶々夫人」(抜粋)が1年生のナレーションとともに繰り広げられました。



2012年10月3日(水) ザ・カレッジ・オペラハウス

ピアノ～華麗なる響きの饗宴～第一夜 コンチェルトの夕べ

ピアノ専攻生が、バロック・古典派・ロマン派・近代それぞれの協奏曲を2台もしくは4台のピアノで、小田野宏之指揮ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団との共演でコンチェルトを披露しました。満員の客席からは白熱の演奏に温かい拍手が響きました。



◀中村 和浩、西 恵里夏、
八尋 由莉、清水 タ貴
(ともに大専)



◀千葉いづみ(演奏家特別
コース2年)、山上
亜理香(大1)



◀前川 裕介、野田 沙彩
(ともに大2)



◀西田 晴香、澤田 奈津季
(ともに演奏家特別
コース2年)



松山 美穂(演奏家特別コース1年)、矢部 嘉信(同2年)、
佐藤 亜衣(同3年)

川邊 由布子、岸本 紗耶、笹倉 可奈子、松本 あかり、佐々 可那子、
鎌田 みづき、井原 ひかり、長谷川 護(ともに大3)



大西 康世、林 ゆかり、太田 麻美、石股 あかり(ともに院2)、
加茂 里織、桑沢 美南、根本 みずき、増井 愛(ともに院1)

浜地 夏未、松浦 愛美、阪口 実久、兵頭 摩耶、下村 理沙、
二川 恵、酒井 麻衣、大谷 知美(ともに大4)

2012年10月30日(火) ザ・カレッジ・オペラハウス
第9回 ザ・ローレル・コンサート

2011年度音楽学部最優秀賞受賞者による演奏会です。今年は2人が出演しました。



小野 文(ピアノ専攻卒)

田橋 愛子(声楽専攻卒)

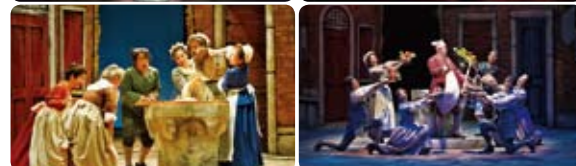
2012年10月26日(金)、28日(日) ザ・カレッジ・オペラハウス

第49回オペラ公演

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第49回定期演奏会
20世紀オペラ・シリーズ

E.ヴォルフ＝フェッラーリ作曲

「イル・カンピエッロ」
《ヴェネツィアの小広場》



関西初演となったE.ヴォルフ＝フェッラーリの「イル・カンピエッロ」が10月26日(金)、28日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスにて行われました。ヴェネツィアを舞台にイル・カンピエッロ(小広場)で巻き起こる騒動を描いたこの作品を、指揮者の大勝秀也氏、演出の栗国淳氏をはじめ、プランナー、ソリスト、合唱団、管弦楽団により18世紀のヴェネツィア世界が見事に表現され、会場中から温かい拍手がわき起こりました。

●学生によるレポート

会場がヴェネツィアの空気に
満ち溢れました

中原 美幸さん(院2・声楽)



幕が開いた瞬間、オーケストラに誘われヴェネツィアの空気があつという間に会場に満ち溢れました。紗幕に描かれている色彩豊かな絵もイタリア的な臨場感を醸し出し、さらに照明効果によって家の中での出来事もよくわかり、とても新鮮でした。随所に出てくるアンサンブルや散りばめられている古きイタリアの旋律に、E.ヴォルフ＝フェッラーリの音楽の幅広さやお洒落さを感じ、その世界に引き込まれました。

その中に生きている登場人物がとてもユニークで、一人ひとりがこんなにも生き生きと輝いている舞台は初めてでした。ストーリーはごく普通の日常が描かれていましたが、終始スピード感があり、時がたつのを忘れて観ていました。役柄をはっきりと提示し、その役が何を目的としているかを示すことでこの物語の本当に伝えたい部分が聴衆に伝わると感じました。私も与えられた役柄の役割と魅力を表現できるようになりたいと強く思いました。

2012年11月1日(木) ミレニアムホール

フィリップ・ペロー クラリネット・ミニ・リサイタル&マスタークラス

パリ国立高等音楽院教授であるフィリップ・ペロー氏によるマスタークラスとリサイタル。岡本珠希さん、山下真理奈さん(ともに大2)、山下美緒さん(大4)の3人が直接指導を受けました。また、ミニ・リサイタルのアンコールでは通訳を務めた中村真美講師とクラリネット・メーカー「セルマー」の方が加わりました。



2012年9月30日(日) ザ・カレッジ・オペラハウス

ミシェル・アリニョン クラリネット・リサイタル

本学客員教授であり、フランスを代表するクラリネット奏者であるミシェル・アリニョン氏。リサイタル当日は関西地方に台風17号が上陸。にもかかわらずたくさんのお客さまにご来場いただきました。モルゴア・クアルテットとの

共演でクラリネットの2大名曲W.A.モーツァルトの「クラリネット五重奏曲イ長調K.581」、J.ブラームスの「クラリネット五重奏曲短調作品115」が演奏されました。



2012年11月12日(月) ミレニアムホール

ファブリス・モレッティ
サクソフォーン・リサイタル

パリ市立ベルリオーズ音楽院教授であり、サクソフォーン奏者として国際的に活躍中のファブリス・モレッティ氏によるリサイタル。時折日本語を交えて客席に挨拶するなど、親しみやすい人柄もうかがえるコンサートとなりました。ピアノの服部真理子氏との対談や解説もあり、3度のアンコール演奏までたっぷり披露されました。



2012年10月17日(水) ミレニアムホール

クロード・ドゥラングル サクソフォーン・リサイタル

フランス国立バリ高等音楽院教授であり本学の客員教授を務めるクロード・ドゥラングル氏のリサイタル。あいにくの雨模様でしたが、満席のミレニアムホールで今年生誕150周年を

迎えるC.ドビュッシーの作品をはじめ、後半では本学のサクソフォーン・オーケストラとの共演でA.K.グラズノフの「アルト・サクソフォーンのための協奏曲 変ホ長調」を演奏しました。



大学祭開催 テーマは「Top of Music」



▲中庭には大きなステージが出現！



▲吹奏楽オリジナルから昭和のヒット曲まで演奏した「学祭プラス」公演



▲「コジ・ファン・トゥット」「愛の妙薬」などオペラのアリアを次々に披露したオペラ研究部

11月2日～4日に大学祭が開催されました。中庭にはステージを組み、周囲には唐揚げ、フランクフルト、ミルクせんべいなど多数の模擬店が立ち並びました。3日間ともお天気に恵まれ、たくさんのお客さまに足を運んでいただきました。

3日にはミレニアムホールにて学祭プラスが演奏。鳴り止まない拍手の中、2回のアンコールに応えました。4日にはF号館434教室にてオペラ研究部が発表。立ち見が出るほどの大盛況でした。ほかに音楽博物館の楽器を体験できるコーナーや、箕面高校のダンス部がステージを披露するなど、バラエティに富んだ催しとなりました。

豊中市も音楽フェスティバル 喜びと感動の音楽フェスティバル

昨年引き続き、大阪音楽大学と豊中市ライオンズクラブ、豊中市が協力して「豊中こども音楽フェスティバル」が9月29日(土)、ザ・カレッジ・オペラハウスにて開催されました。今回は本学音楽器専攻生によるファンファールに続き箕面自由学園高等学校吹奏楽部「ゴールドペンアーズ」のマーチングでスタート。クラリネットやトランペットのソロ演奏のほか、庄内南小学校、第十三中学校、第十一中学校の吹奏楽部が華やかに演奏を繰り広げました。本学からは大学4年生によるクラリネット二重奏と大学3年、4年生による金管十重奏を演奏。最後は出演者全員と客



▲与儀静さん、西池優紀さん(ともに大4・クラリネット)、清水笙子さん(大4・ピアノ)によるクラリネット二重奏と華やかな演奏で会場を盛り上げた金管十重奏

席が一緒になって「翼をください」を大合唱し、フィナーレを飾りました。

おめでとうございます フレッシュマン給付奨学金 給付確認書授与式

大阪音楽大学奨学制度2012年度フレッシュマン給付奨学金適用者給付確認書の授与式が10月4日(木)A号館会議室にて行われました。この制度は新入生(1年次)の皆さんの積極的な勉学を応援し、オーディションにより選抜されます。



【大学】
川崎 沙倭花、藤本 理子(以上ピアノ)、若あづさ(管楽器)、米田 尚弥(弦楽器)【短大】
阿部 宗和(ピアノ)、堀 篤夫(管楽器)、土岐 みちる(ジャズ)、小林 由季子(電子オルガン)

研究室訪問

普段はなかなか入ることのできない先生の研究室におじゃまします！

今回お訪ねしたのは……

油井 美加子 教授
(担当科目: ピアノ・ピアノ実技、ピアノ演奏法Ⅱ、ピアノ専門特殊研究Ⅲ(A)、ピアノ基礎演習A・B、伴奏理論Ⅰ) A号館306号室

年代物のソファ 実は親子2代で使っています

ここは窓が大きくてまるでサンルームのような、本当に明るく暖かい部屋。冬でも暖房がいらないくらいで、とっても気に入っています。

存在感ある年季の入ったソファは、実はもともと父(油井成行名誉教授)がレッスン室で使っていたもの。退任後に柿木功先生がお使いになっていて、先生が退任された後、この部屋にやってきました。つまり親子2代で使っている年代物です。

親子で大阪音楽大学の教員をしているという、皆さんには「さぞ音楽に厳しい家庭だったのでしょう」と言われるのですが、実はそうでもありません。どちらかというと、あまりお互い干渉はしないタイプ。でも、やはり父の背中を見て育ってきたからでしょうか。きっとどこかでその影響を受けていて、私も結果的に教員の道を選んだのかもしれないですね。

レッスンでは学生との「対話」を大切にしています。人は皆個性があり、自分をうまく表現できる人も苦手な人もいます。常に受身でいるのではなく、自分自身で考える力を身に付けてほしい。そんな思いが伝わるよう意識して指導しています。私がこれまで自分の先生方から受け継いだことを、今度は教員という立場になった私から学生に伝えていきたい。そしてまた学生が指導者となった時にさらに、その後の世代に受け継いでほしい。ここ数年、そんな使命感にも似た気持ちを持つようになってきています。



▲「親子2代」で使っているソファ。あちこち破けていますが愛着があって大切な宝物

Daion Report

学生が見た！聞いた！海外体験をお送りします。

山下 美緒さん(大4・クラリネット)

▲クールシュベールの風景



「自分にしかできない表現をすること」をフランスで発見

8月に「クールシュベール国際音楽アカデミー」を受講するため、15日間フランスに滞在しました。今年3月に、京都で行われた講習会でレッスンしていたRomain Guyot先生の音楽に感動し、ぜひまたレッスンを受けたと思ったからです。

大学入学当時からフランス留学にあこがれはありましたが、実際に行ったのは今回が初めて。まだ語学に堪能ではない私でも、フランス語と英語を交えてなんとかコミュニケーションをとりました。

レッスンでは「演奏がとても硬い。もっとオペラ歌手のように柔軟に歌いなさい」とよく言われました。それまでは、何も考えずにただひたすら技術的な練習を繰り返していましたが、先生に歌ってもらってはそれを



▲クラス集合写真

した。両大学は、両校間に互いの協調関係を確立することを願い、教育、研究、その他領域において芸術と文化交流を行う予定です。



デポール大学と姉妹校提携を締結 芸術と文化の交流を行います

鈴木名誉教授は、1963年大阪音楽大学助手兼付属高等学校講師として着任、77年に教授となり、以来08年に退任するまで実に45年にわたって教育に従事してこられました。また東京藝術大学卒業と同年に音楽コンクール、音楽之友社作曲懸賞等に入選を果たし、現在も活発な作曲活動を行われています。

このたび鈴木名誉教授が発起人となり、関西で活動する同世代の作曲家の賛同を得て「関西オーケストラプロジェクト」を立ち上げました。5月19日(土)にはいずみホールで、秋山和慶指揮のもと関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏でそれぞれ独自のコンセプトに基づいた全4作品新作初演コンサートを開催。その作品の質の高さと関西音楽界に与えた影響が、今回の大阪文化祭賞



鈴木 英明名誉教授
(関西オーケストラプロジェクト代表)

平成24年度大阪文化祭受賞 作曲は「心の糧・生きる証」

受賞につながりました。

「教育者であり現役の作曲家である先生方に声をかけ、会の趣旨(現代音楽の普及と活性化)に賛同していただいたことをきっかけに始まったこのプロジェクトが実現し、受賞できたことを大変嬉しく思っております。企画のユニークさと、オーケストラを使った大規模な演奏会、そして全員が70歳代の現役音楽家であるところが評価されたのではないかと思います。実行するまでにはさまざまな困難もありましたが、全員の思いが一つになり、パワーが結集されて実現することができました。コンサートも満席となり、高評をいただきました。特に秋山先生と関フィルには大変なご協力をいただき感謝しております。作曲は自分にとって心の糧、生きる証です。生涯現役でありたいと願っています」

なお、鈴木名誉教授の作品「祈りの力」(オーケストラのための)は、来春ブルガリア国立ソフィア管弦楽団にて、当地で再演される予定です。



▲左より中村茂隆、中西寛、秋山和慶(指揮)、セツ矢博資、鈴木英明名誉教授

新理事 岡野幸義氏 が就任



ダイキン工業株式会社の相談役(前代表取締役社長)の岡野幸義氏が10月1日付で本学理事に就任。

横田浩和名誉教授が死去 厳しくも 繊細な情熱家



横田浩和名誉教授が11月20日、死去されました。77歳でした。横田名誉教授は1967年より助手、講師、助教授を経て81年教授に就任。04年に退任するまで実に37年間にわたり教育に従事。また81年より関西二期会常任理事を務められました。

★祝！コンクール受賞

各種コンクールで受賞された皆さんの喜びの声をご紹介します

第20回 太陽カンツォーネコンクール
クラシック部門 優勝

2012年7月7日(東京・浜離宮朝日ホール)

人の心に訴える歌を追求して優勝することができ、大変嬉しく光栄です。またお世話になった皆さまに厚くお礼申し上げます。クラシックファンではない皆さまにも親しみやすい音楽、演奏家を目指し精進して参ります。

榎本 てるあき
(04年大卒・声楽)第34回 阪神ジュニャ音楽コンクール
ドビュッシー部門 一般の部 金賞

2012年7月27日(ピッコロシアター)

生誕記念なので、弾いたことのないC.ドビュッシーを弾いてみようと思いました。難しかったですが作曲家のいろいろな魅力がわかりました。このような賞をいただけて大変嬉しです。ご指導くださった土井緑先生に感謝いたします。

角 悠子
(11年大卒・ピアノ)エターナルピアノコンクール
スタディー部門 第2位

2012年7月29日(平塚市中央公民館大ホール)

卒業後も、アマチュアではありますがピアノを続けております。自由に弾いて自由な選曲ができるのは、アマチュアの特権です。これからもずっと音楽とともに歩んで参りたいと思っております。

高木 大
(01年大卒・楽理)第6回 全日本芸術コンクール関西本選
ピアノ部門 大学・一般の部 第2位

2012年8月11日(うはらホール)

演奏した曲は、L.ヤナーチェクのピアノ・ソナタ「1905年10月1日 街頭にて」です。この曲は、彼の愛国心や苦しみ、葛藤、死に対する深い悲しみが描かれていて、これらを表現するのは難しかったですが、少しは彼の気持ちに近づけたかと思えます。

田原 祐子
(大4・ピアノ)第15回 “長江杯”国際音楽コンクール
声楽部門 大学の部 第2位(1位該当者なし)

2012年8月19日(ピッコロシアター)

大学に入って初めて受けたコンクール。本番まで何度も先生にレッスンしていただき、コンクール当日は落ち着いて歌えるよう心がけました。これが評価につながり大変嬉しく思います。これを糧に、また頑張っていきたいと思えます。

佐藤 海奈
(大3・声楽)第15回 “長江杯”国際音楽コンクール
声楽部門 一般の部 第1位

2012年8月19日(ピッコロシアター)

自分の音楽活動を形にできたことをとても嬉しく思います。ご指導いただいた先生、そして幅広い経験の場を与えてくださった大学に、改めて御礼を申し上げます。これを第一歩とし、さらなる精進に努めます。

的場 正剛
(12年大専修・声楽)第15回 “長江杯”国際音楽コンクール
一般部門 Aの部 第2位

2012年8月19日(ピッコロシアター)

今年大学を卒業した私は、週に一度していただいていたレッスンもなくなり、戸惑いながら自分で試行錯誤をしてコンクールに臨みました。2位という結果となり、一つ形として残せたことをとても嬉しく思います。これからもたくさんのチャレンジをして精進して参ります。

岩橋 祐佳
(12年大卒・サクソフォン)第15回 “長江杯”国際音楽コンクール
アンサンブル部門 一般の部A 第3位(フルート四重奏)

2012年8月19日(ピッコロシアター)

坂本 よしえ(12年大卒・フルート)

今回の曲は、私たちが初めての演奏会で演奏した思い出の曲、原点です。その曲でこうした評価をいただけたことは大きな励みになります。今後も初心を忘れず、私たちがからできる音楽を追求していきたいと思えます。



福島 京(12年大卒・フルート)

結成してから1年しかたっておらず、まだまだ課題は多くありますが、今回の入賞を皮切りに、より音楽性の高いアンサンブルができるよう、今後一層練習に励みたいと思えます。

松本 美菜子(12年大卒・フルート)

このカルテット初のコンクールということで、ソロとはまた違った、とても貴重な経験となりました。今後の活動の糧としてさらに発展していけるよう、一丸となって努力し続けていきたいと思えます。

松岡 希(12年大卒・フルート)

このたびのコンクールは、新たな課題と方向性が見えたとてもよい機会になりました。入賞を糧にさらに精進し、これからの課題と今まで以上に真剣に向き合いながら、貪欲にいろいろなことに挑戦し続けたいと思えます。

★NEWリリース

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜などをご紹介します

新刊

中村 孝義(理事長・教授)
「音楽の窓」
2000円(税別)

全国の書店、amazon他

1 993年から11年にわたって毎日新聞に掲載されたコラムの一部をまとめたもの。「西洋音楽の中の民族性」「音楽と詩」あるいは文芸「室内楽をめぐる」の3部構成。各編330字の小文ながら、新聞では不可能であった図版や表、楽譜、註などを豊富に盛り込み、音楽の奥深さに分け入る方法を、簡潔に、美しく示しています。

CD

大塚ゆき(99年大卒・フルート)
「Eventually(イベントゥアリー)」
2000円(税込)
RJPレコード、amazon、タワーレコード他2 ラシック音楽を気軽に聴いてほしい！そんなコンセプトのもと、アメリカ、フランス、そして日本から愛らしいメロディを集めて作った1stアルバムです。ピアノには世界中の音楽家から信頼を寄せられる鈴木華重子さんを迎えました。ドライブ中に、お茶とともに、一日の終わりに、さまざまなシーンでお聴きいただけます。
http://yukiotsuka.com

新刊

青柳いつみこ(教授)
「ドビュッシーの神秘」2940円(税込)
全国のCDショップ、amazon他
「ドビュッシーとの散歩」1470円(税込)
全国の書店、amazon他

3 ビュッシー生誕150年を記念して書籍とCDを同時刊行しました。「ドビュッシーとの散歩」は、ヤマハの雑誌「音遊人」の連載に加筆したもので、ドビュッシーのピアノ曲40曲をとりあげたエッセイ集です。CD「ドビュッシーの神秘」は、「前奏曲集第2巻」をメインに、中期・後期の小品を配しています。構想半ばで断念した前奏曲をイギリスの音楽学者オーレグが再構築した「象たちのトーマイ」など珍しい作品も収録しています。

新刊

大森 香奈(07年院修・打楽器)
「マリンバで弾くクラシック名曲集1」
2600円(税込) HCO Music ネットショップ
(www.hcomusic.com)、M's Dream(072-686-6660)、ジャパン・パーカッション・センター(03-3845-3041)、こおろぎ社東京営業所「ネオリア」(03-5912-5880)、大森香奈オフィシャルサイト (www.kana-mallets.com)

4 私 の編曲で演奏いたしましたCD「ジュトゥ・ヴ」の収録曲が一冊の楽譜になりました!!ショパンやバッハなどのクラシックの名曲を、ソロマリンバ用にアレンジさせていただきました。4本マレットのエチュードとしても、コンサート曲集としてもお使いいただける一冊。たくさんの方に演奏していただければ嬉しいです。

中村理事長推薦!

大音生なら
必ず聴きたい

100曲



第1回

今回のテーマ

ルネサンス以前

文 中村 孝義(理事長・教授)

発見の多い古代ギリシャ・グレゴリオ聖歌・
中世ルネサンスの音楽

大阪音大で勉強した人には、自分の演奏した曲しか知らないなどという人になってほしくはありません。音楽作品は各曲が孤立して存在するのではなく、長い歴史の中にある多くの蓄積の一部として存在します。全体が見えなければ部分の意味などわかりっこないのです。そして全体を知るには、部分を地道に積み上げていくしかありません。アメリカの大学などでは、知っておかねばならない課題曲(一説によると数百曲)をクリアしなければ卒業できないとか。このコーナーでは、西洋音楽という巨大な全体を形作っている重要な100曲(本当はこれでは少ない!!)を挙げ、皆さんの西洋音楽の全体像を広げ深める一助になればと思います。併せてCDも紹介しますので、100曲全曲を図書館などで耳にしていただければ、西洋音楽の大きな流れや変化の節目が見えてくるでしょう。

第1回は多くの人にとってあまり親しみのないルネサンス以前。まずは古代ギリシャの音楽。これが意外とおもしろいのです。楽譜は解読されていますが、何しろ残された断片の少なさと細かい演奏法などほとんどわからないので、どのように演奏しても一種のファンタジーにしかならないのですが、「へー」と思わせる力があるのです。ひよっとしたら思いがけない刺激や発見が得られるかもしれません。

次に、中世といえはグレゴリオ聖歌。単旋律ながら、神秘的に満ちた荘厳さや力強さには、一度聴けば忘れられない圧倒的な感動が秘められています。ヨーロッパでは、今も教会で普通に耳にできるものです。西洋音楽の根源がここにあることをぜひ確認してください。

ヨーロッパ音楽が大きな存在感を持つに至った理由の一つが、ポリフォニーの発

今回の推薦曲

- 古代ギリシャの音楽
パニアグラ盤:CD 魔盤 [Ⓢ: W 3-2 (アナログレコード)], シュタインマン盤: HMC905263 [Ⓢ: CD 279-22]
- グレゴリオ聖歌 CD
これは特に特定する必要はないでしょう。どれでも手にとって聴いてみてください。
- ジョスカン・デ・プレ:モテット集
CC33-3328 [Ⓢ: CD 2-41], E8507 [Ⓢ: CD 81-1]

※始めに表記しているのはCDの製造番号です。
Ⓢは図書館請求番号を表しています

見(発明?)。単旋律音楽を聴いた後で複旋律の音楽を聴くと、その空間の広がり方に驚きます。中世からルネサンスはその宝庫なのですが、ここでは、例えばジョスカン・デ・プレのミサやモテットを紹介しておきましょう。レオナルドやラファエロの絵にも比すべき均整と調和に満ちたその音楽は、聴けば一生の宝になることは必定。次回からはバロック以降の名曲をご紹介します。

Topics 世界で活躍する卒業生

NYを拠点に活躍する
ジャズフレンチホルン奏者
山村 優子(97年短卒・音楽専攻)

「ジョン・レノン・ソングライティング・コンテスト」でジャズ部門の最優秀賞を受賞した山村さんはNYを拠点に活動中。このコンテストはオノ・ヨーコさんはじめ、ビートルズの元関係者などが中心になって立ち上げているもので、日本人としては初の受賞になりました。山村さんはこのほか和太鼓奏者の片岡亮太さんとのデュオでNYの音楽フェスティバルにて最優秀賞を受賞、またバーゲン航空の機内ラジオの曲に選ばれるなど大活躍中です。



「審査員も素晴らしい方々ばかり。そんな中で審査していただき、本当に光栄に思っています」

ミュージカルソーフェスティバルで
世界1位!

齊藤 舞歌(96年院修・フルート)

8月11日～12日にアメリカ・カリフォルニア州サンタクルズで開催された第35回ミュージカルソーフェスティバル「ミュージカルソー世界大会」第1位を受賞された齊藤さん。2010年の夏にアメリカの世界大会で準優勝と特別賞を受賞。その時に世界のミュージカルソー奏者たちと出会ったそうです。

「私がミュージカルソーと出会ったのは映画『パコと魔法の絵本』。この世のものととは思えないとても美しい音色でした。一昨年に続き、より成長した自分の演奏を聴いてほしいと再度渡米。今回は第1位をいただくことができました。12月23日には中之島公会堂でのこぎりオーケストラによる第九の演奏をさせていただく予定です」

オーボエ・ソロリサイタルを開催
大島 弥州夫(00年大卒・オーボエ)

卒業後数多くの楽団に参加、またソリストとしてもオーケストラと共演するなど活躍する大島さん。このたび大阪と東京でソロリサイタルを行います。



「オーボエの持つ「歌、唄、詩」を大切に演奏したいと思っています。内田奈織さん、大堀晴津子さん、川島素晴氏の強力なサポートをいただき、感謝してステージに臨みます」

大島 弥州夫 オーボエリサイタル

- 2013年1月18日(金)
19:00開演(18:30開場)
ザ・フェニックスホール
お問い合わせ:06-6135-0503 (大阪アーティスト協会)
- 2013年1月22日(火)
19:00開演(18:30開場)
東京オペラシティリサイタルホール
お問い合わせ:03-5353-0770 (東京オペラシティ文化財団)
チケット:3000円
ピアノ:大堀 晴津子 ハープ:内田 奈織

演奏会やオペラなど、大音関連の魅力的なイベントを紹介します。

演奏会 Information

2012年 2013年
12月 4月

●=出演者 ■=場所 ○=入場料 ☆=問い合わせ先

大阪音楽大学主催公演

第7回 ミレニアムピアノコンサート 12/18(火)17:00 ~
●岡部 佐恵子、鳥居 知行 ■MH ●無料

2012年度 大阪音楽大学短期大学部
電子オルガンコース・コンサート
「フライング・ライブ2013」 1/13(日)17:00 ~
●電子オルガン・コース在学学生 ■OH ●1000円

2012年度 大阪音楽大学短期大学部
ポピュラーコース・コンサート 1/26(土)18:30 ~
●ポピュラー・コース在学学生
■サンケイホールブリーゼ ●1000円

2012年度 大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部
ジャズコース・コンサート 2/14(木)18:30 ~
●ジャズ・コース在学学生 ■MH ●1000円

第24回 大阪音楽大学学生オペラ
W.A.モーツァルト「フィガロの結婚」
(全4幕・原語(イタリア語)上演・字幕付)
2/16(土)18:00 ~、2/17(日)14:00 ~
指揮:小田野 宏之、演出:中村 敬一 ■OH
●一般2000円、シルバー・小・中・高校生1000円

2012年度 大阪音楽大学短期大学部
ミュージカルコース第2回試演会 2/21(木)18:00 ~
●ミュージカル・コース在学学生 ■MH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学短期大学部 第18回 吹奏楽演奏会
2/23(土)17:00 ~
指揮:丸谷 明夫、小野川 昭博、伊勢 敏之
●大阪音楽大学短期大学部吹奏楽団 ■OH ●1000円

大阪音楽大学 第44回 吹奏楽演奏会 3/2(土)18:00 ~
指揮:北野 徹、丸谷 明夫 ●大阪音楽大学吹奏楽団
■ザ・シンフォニーホール ●1000円

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部
第10回 ザ・ストリング・コンサート 3/7(木)18:00 ~
指揮:上塚 憲一 ●大阪音楽大学・短期大学部弦楽
器専攻生 ■OH ●1000円

大阪音楽大学短期大学部 2012年度卒業演奏会
第一夜3/13(水)18:00 ~ 第二夜3/14(木)18:00 ~
●2012年度成績優秀者による演奏会
■OH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学 2012年度卒業演奏会
第一夜3/15(金)18:00 ~ 第二夜3/16(土)18:00 ~
●2012年度成績優秀者による演奏会 ■OH
●無料(要整理券)

ザ・カレッジ・オペラハウス第27回推薦コンサート
2012 8連戦×2台×6人による管弦楽曲堪能夜会
〜ピアノは何楽器??〜 3/23(土)18:30 ~
■OH ●一般2000円、シルバー・小・中・高校生1000円

問い合わせ先: 大阪音楽大学コンサート・センター
TEL:06-6334-2242 <http://daion.ac.jp>

学生自主演奏会

大阪音楽大学サクソフオーンオーケストラ
12/15(土)15:00 ~
●大阪音楽大学・短期大学部・専攻科サクソフオーン専
攻生 ■OH ●800円 ☎070-5075-0956(長島)

Message
大阪音楽大学サクソフオーンオーケストラです!
今年度もサクソフオーンオーケストラ演奏会を開催
する運びとなりました。サクソフオーンの魅力を皆
さまにお伝えできるよう、心を込めて演奏いたしま
す。皆さまのご来場、お待ちしております。

トランペットアンサンブル 第14回定期演奏会
12/19(水)18:30 ~
●大阪音楽大学・短期大学部・専攻科トランペット専
攻生 ■OH ●500円 ☎080-1420-3827(加島)

Message

トランペット専攻生による演奏会です。トランペッ
トアンサンブル王道の曲からJAZZ、現代曲までさ
まざまなジャンルの曲に挑戦します。トランペッ
トの魅力が詰まった演奏会となっております。ぜひお
越しください!

フルートオーケストラ 第29回定期演奏会

12/20(木)18:00 ~
●大阪音楽大学・短期大学部・専攻科フルート専攻生
■OH ●500円 ☎080-3772-7479(印藤)

Message

今回も、皆さまにお楽しみいただけるプログラムに
なっています。日頃のレッスンでの成果を出し、精
一杯かつ楽しんで演奏をしたいと思います! ぜひ、
フルートオーケストラ定期演奏会にお越しください。

第42回 打楽器オーケストラ 12/23(日)14:00 ~
●大阪音楽大学・短期大学部・専攻科打楽器専攻生
■OH ●500円 ☎090-4282-8709(橋見)

Message

打楽器のみでオーケストラの音楽を演奏し、その
魅力をお伝えできるよう、先生方のご指導のもと
練習に励んで参りました。皆さまのご来場を心より
お待ちしております。

大阪音楽大学後援演奏会

ケルター・ボーンと仲間達の音楽会 12/15(土)19:30 ~
●永田 孝信、高 昌帥、朴 守賢 他的作品
■トントレフ・ヒコ ●一般3000円、学生2500円
☎0798-47-6613(永田)

青井 彰ピアノリサイタル 12/18(火)18:30 ~
■兵庫県立芸術文化センター小ホール
●2500円(当日3000円)
☎0120-961-861(JSOコンサート企画係)

岡原慎也・岡田将 ピアノデュオリサイタル
12/21(金)19:00 ~
■宝塚バガホール
●一般3000円、学生2000円(当日3500円/2500円)
☎090-3709-1998(ラプト・サウンド)

Fêtes galantes ~艶やかな宴~
ドビュッシー生誕150年に寄せて
12/26(水)18:30 ~
●大橋 ジュン、高津 綾子、篠原 猛浩 他
■東梅田教会 ●2500円(当日3000円)
☎072-781-8087(永澤学事務所)

大竹道哉ピアノリサイタル 1/12(土)14:00 ~
■和泉市久保惣記念美術館 ●無料(要入館料・整理券)
☎0725-54-0001(和泉市久保惣記念美術館)

第46回 幸楽会コンサート 1/14(月・祝)14:00 ~
●晴 雅彦、石橋 栄実、尾崎 比佐子 他
■OH
●1000円 ☎06-6334-2832(幸楽会)

声の迷宮 Vol.Ⅲ現代の音楽、声の可能性を探る旅
〜ギタリスト・佐藤紀雄氏とともに〜
1/20(日)16:00 ~
●諸橋 玲子、南川 弥生 他的作品 ■南港サンセットホール
●一般3000円、学生1500円
☎06-6844-0320(MUSICA)

清水 淳彦プロデュースによる協奏曲の響宴〜 Vol.2 ~
2/13(水)19:00 ~
■いずみホール ●4000円(当日4500円)
☎06-6345-1046(日本テレマン協会)

高津 綾子・神永 強正 デュオリサイタル
2/17(日)14:00 ~ ●奏美ホール
3/17(日)14:00 ~ ■伊丹アイフォニックホール
●3000円 ☎072-781-8087(永澤学事務所)

MH= ミレニアムホール OH=ザ・カレッジ・オペラハウス

増井 一友 ギターコンサート Vol.9
2/27(水)19:00 ~ ■西宮市甲東ホール
●1000円 ☎050-3497-0294(夙川ギター倶楽部)

鳥居 知行 ピアノリサイタル
3/13(水)19:00 ~
■兵庫県立芸術文化センター小ホール ●3000円
☎06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

春の特別演奏会 3/28(木)19:00 ~
●小田野 宏之、農頭 奈緒 他 ■OH
●1000円 ☎090-9705-9660(丹澤)

二星美紀・阪防部匡司ジョイントコンサート Vol.1
4/6(土)14:00 ~
●大人2000円、小・中学生500円
☎0859-35-8111(米子コンベンションセンター)

にっぽんの歌 4/14(日)14:00 ~
●田邊 織恵、橋本 恵史、小林 峯介
■とりぎん文化会館小ホール
●一般2000円、高校生1000円(当日2500円/1500円)
☎080-1916-5341(山根)

幸楽会後援演奏会

音の世界旅行 フルート・ギター・ピアノリサイタル
12/16(日)14:00 ~
●イゴール・ゴルガー、梶本 ひろ子、小野田 美緒
■平成音楽大学サテライトステージ
●2000円(当日2500円) ☎080-5210-1974(梶本)

親子のためのクリスマスコンサート
12/20(木)第1部11:00 ~ 第2部15:30 ~
●サンタクロース、ニヤリみゆき
■兵庫県立芸術文化センター小ホール
●第1部:親子ペア2名1組3000円、小人1500円、
大人2000円 第2部:2000円
☎0798-52-5515(ジーエムアートグレイス)

オペレッタ・ガラ・コンサート Vol.2
12/21(金)18:30 ~
●石橋 文恵、木村 奈々、田中 敦子 他
■兵庫県立芸術文化センター小ホール ●3000円

心に語りかける名曲の午後へのお誘い
12/22(土)15:00 ~
●ヴィットーリオ・テッラノーヴァ、宮田 乃梨子、
高橋 敬一 ■イシハラホール ●3500円
☎078-441-6915(神戸コンセールクラブ)

チャイコフスキーと名曲コンサート
12/22(土)14:00 ~
●森下 奈美、寺西 一巳、日野 俊介
■堺市民会館小ホール ●1500円(当日2000円)
☎072-238-1481(堺市民会館)

DUO CONCERT Vol.6
ソプラノとヴィオラのクリスマス
12/23(日)第1部13:00 ~ 第2部14:30 ~
●奥 幸代、老田 裕子 ■ホテルサンプラザ堺1F
●2000円(ワンドリンク付) ☎090-4907-6071(奥)

青島先生のクリスマスコンサート
12/25(火)第1部12:00 ~ 第2部13:30 ~
●青島 広志 他 ■プチエル天満橋 ●各3000円
☎06-6965-1654(はまぐちびあのりとみっく教室)

Crea Concert ピアノと声楽の調べ
12/29(土)14:00 ~
●植村 夏子、山田 維久子、吉木 綱子 他
■兵庫県立芸術文化センター小ホール ●1000円
☎050-3605-1667(植村)

橋本 恵史のお楽しみ会 Vol.1 1/19(土)18:00 ~
■MH ●無料(要整理券) ☎080-4481-3170(橋本)

ブダベストの風 ヘゲドゥシュ エンドレ コンサート
3/16(土)15:00 ~ ■音楽ホール「奏美」
●2000円 ☎souvi.no.kai@gmail.com(奏美の会)

学校法人 大阪音楽大学広報誌「Muse」 vol.224 2012年12月10日発行
●発行:学校法人 大阪音楽大学 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL:06-6334-2131 FAX:06-6334-2141 <http://daion.ac.jp>
●制作・編集:広報室 muse@daion.ac.jp
●デザイン協力:(株)産業編集センター

キャリア支援センター

練習の励みに挑戦したいコンクール。でも準備や費用などを考えて受けることをためらっている人も多いのではないのでしょうか? キャリア支援センターではそんな学生の皆さんをサポートしています。

コンクールを受けてみたい方へサポートいたします

本学では、日々の練習を重ねる中で「日頃の成果を試してみたい」という方にはコンクールを受けることを推奨しています。コンクールを目標に練習を積むことはステップアップにつながるだけでなく、大きな励みになることでしょう。

「コンクールを受けてみたい」と思い立ったら、まずはレッスン担当の先生に相談してみてください。自分に合ったコンクールを紹介してもらうことも可能です。また、キャリア支援センターへお越しいただければ、国内外のさまざまなコンクール情報を閲覧していただくことができます。卒業生の方も閲覧可能ですので、ぜひ気軽にお願いします。

コンクールで受賞した方は在学生・卒業生ともにキャリア支援センターまでご報告ください。3位までに入賞した方は学内掲示をするほか、本誌「Muse」にも掲載されます。表彰状のコピーと顔写真もご持参ください。

受賞後に飛躍的な活躍をされている方はたくさんいます。コンクールをきっかけにその後の音楽活動のステップアップにつながる可能性も大いはず。ぜひ挑戦してみてください。

コンクールを受けるための費用はおおむね5000円～30000円。学生にとっては決して安くはない金額です。大阪音楽大学奨学事業財団では、コンクールを受けて入賞(1～3位まで、もしくはそれと同等の受賞)した方への奨励金制度を設けています。奨励金を受けるには審査があります。希望する方は学生支援センターへお尋ねください。

▶コンクールのチラシは「ぼうぜ」入り口近くのラックにも置いてあります

◀キャリア支援センターではコンクール情報をファイルしていつでも閲覧できるようにしています

コンクールのことなら気軽に相談ください

キャリア支援センター
森下 美幸子

ひとこと
Muse

引越しなどで住所が変わり「Muse」が転送されている方がいらっしゃいましたら、ぜひ現在の正しい住所を大学の方にお知らせください。郵便局の転送サービスの期限が切れると配達されなくなってしまいます。メール(muse@daion.ac.jp)、電話(06-6334-2131広報室まで)またはFAX(06-6334-2141)でお知らせください。

CAMPUS

学内の各部門・施設から、学生生活に役立つ情報をお届けします。

Information

学生支援センター

仕事に必要な知識やスキルも本学で体系的に学べます。

「副専攻制度」をご存知ですか?

一般的に音楽大学では、レッスンや各専攻の専門教育科目を中心に学びます。ともすれば就職に不利なのでは? と考える方も少なからずいるかもしれません。本学では本年度より、卒業後に仕事をする上で役に立つ知識やスキルを体系的に学ぶことができる「副専攻制度」が始まりました(2012年度大学入学生から対象)。これは指定された科目の中から12単位以上を修得し、所定の成績を修めた場合、卒業時に副専攻修了の認定を行い、認定証を授与するものです。

プログラムは「音楽マネジメント」「音楽療法」「音楽指導者」「音楽研究」の4つ。将来は音楽に関連するこれらの仕事に就きたいと希望する方には、大変

有意義な構成になっています。申請は3年次進級時に受け付けますが、第1～4セメスター時に修得した単位を含めることも認められます。

専門の科目を修得することに加えて、大学在学中に実社会の仕事に生かせるプログラムを学ぶことは、将来進みたい道を見極め、世界を広げるためにも大変重要と言えます。この「副専攻制度」ぜひご活用ください。詳しくは学生便覧P56をご覧ください。

「副専攻制度」についての質問は学生支援センターまでお願いします

教務
増田 真由子

連携支援センター

連携支援センターでは、主に社会人に向けての公開講座を開催しています。

ミレニアムホール特別講座 第50回
「第50回特別講座コンサート」

ミレニアムホール特別講座が13年目第50回を迎えます。そこで今回は特別豪華にオペラハウス管弦楽団(弦楽)が出演。モーツァルトからバーバーまでの豊かな響きをお楽しみに。3月2日(土)14:00～16:00(13:30開場)プロデュース・講師:日下部 吉彦
演奏:オペラハウス管弦楽団(弦楽)
受講料:1500円

お申し込み・お問い合わせ

大阪音楽大学 連携支援センター TEL 06-6334-2249 <http://daion.ac.jp>
※特別講座・公開講座の項目をご覧ください。 場所:ミレニアムホール

オペラ物知り講座
第8期は「師匠から弟子へ～伝えたいもの」

～師匠の活躍に続け～
大音のミスター・テノールと愛らしい弟子との競演
1月22日(火)18:30～20:30(18:00開場)
構成・お話:中村 敬一
師匠:阪上 和夫 弟子:柴山 愛
ピアノ:西尾 麻貴
受講料:1000円



阪上 和夫
名誉教授

ほっと一息 学生サロン「ぼうぜ」

ケーキもついてるクリスマスランチが登場!

12月20日(木)、21日(金)は「クリスマスフェア」を行います! メインのチキン料理にサラダ、スープ、ライスにぼうぜ手作りのケーキがついてなんと420円! ぜひ「ぼうぜ」でクリスマス気分を満喫してくださいね。

クリスマスフェアのメニューの数々(写真はイメージです)

1月には「あったか麺」フェアが登場。バラエティ豊かなさまざまな麺が味わえます。2月には「煮込みフェア」を予定しています。ポトフやシチューなど、心も体も温まるおいしいメニューが日替わりで登場します。お楽しみに!

携帯電話のCMで渡辺謙さんと 堀北真希ちゃんがパートナー・ ロボットのような役割を 演じていたのを覚えていますか？

今年も残り少なくなりましたが、2012年は作曲家ジョン・ケージ(1912～92)の生誕100年、有名な(?)「4分33秒」の記念エディションが出版されて楽しませてもらい(笑ってしまいました)。もう1人、デジタル・コンピューターの基本概念を確立したアラン・チューリング(1912～54)も生誕100年、そして100年後の2112年にはドラえもんが生まれ(生産され?)ます。チューリングは思考機械=人工知能を夢見た人物です。機能分化した人工知能は工場や乗物、家電製品などに制御装置として組み込まれ実用化されていますが、鉄腕アトムやドラえもんのような汎用思考機械は実現していません。

17世紀、デカルトは精神(知性)を持たない動物は機械にすぎないという論を唱えましたが、19世紀にダーウィンが自然淘汰に基づく進化論を確立して以降、20世紀には人間が他の動物とは隔絶した決定的に高等な生き物だという信念には科学的根拠がないという考え方が定着します。

人間は高度に機能分化した細胞の集まりに過ぎない、という人間機械論とでも称すべき前提に立って、チューリングは膨大なデータを記憶しプログラムに従って処理をする理想機械(チューリング・マシン)を構想し、思考する機械=人工知能を人間と区別することはできないというシミュレーション(チューリング・テスト)について考察しました。人間が常に論理的に考え行動するのなら、ロボットは人間を模倣することができるという発想のもとに、アトムもドラえもんも誕生したわけです。人間にできることは機械にもできる→人間にできないことも機械にならできる(アトムもドラえもんも人間の能力をはるかに超えています)とすれば、人間にしかできないこととは何か？ ということが機械と人間が複合系を成しているような状況になった21世紀の問題ということになりそうです。

人間にとって現実とは、どこまでも流動的で極めて不定形な混沌です。人間はしょっちゅう間違いを犯し、迷い、躊躇します。論理的に生きることなど不可能です。だから芸術は人間にとって不可欠だ、などという安易な芸術擁護論に与するわけではありませんが、字数が尽きました。パーマン(古っ!)に出てくるようなコピー・ロボットが学長の椅子に座って仕事をこなし、本人は隠居三昧という妄想をたくましくする今日この頃です。



こうちゃんす●1970年、大阪生まれ。
大阪音楽大学作曲学科卒業後、スイス・
バーゼル音楽アカデミー留学。これまで
に作曲を田中邦彦、R.ケルターボーンの
各氏に、指揮をJ.マイヤー氏にそれぞれ
師事。関西現代音楽交流協会会員。

「プラモデル」に「作曲」 構造美愛好家！？がハマったものたち

作曲・准教授 高 昌帥

教 員
リレー
エッセイ
Vol.6

今回はクラリネットの
玄 宗哲先生です。
話題豊富な彼のエッセ
イが楽しみです。

男の子なら誰もが通る道だ
と思います。僕もまた
小学生の頃、プラモデル作り
にハマっていました。ちやうどガ
ンダムブーム真っ只中で、いわ
ゆるガンダムブームをたくさん
作りました。僕はとくにザクが
好きでした。左右非対称のフォル
ム、一つしかない目(というかも
モニター)、おき出しの配管など、
それまでのロボットもののアニメ
の常識を破る、いかにも「オレは
機械である、ええ、機械であります
とも」という強力なメカアピール
が僕の心を鷲掴みにしたのでした。
そんな機械好きの僕が中学生の
時にハマったのが「管弦楽曲のス
コアを見ること」でした。一見、
プラモデルとは何の関連もなさ
そうに思うかもしれませんが、
プラモデルの設計図を見ること
や作ること、スコアを見ること
がもたらす知的興奮は、実は非
常に近いのだと思います。い
ずれも「構造美」を愛でている
のだと考えられます。

こういう「構造美愛好家」は、音
楽に接する時に耳で聴くだけで
なく、目で見る方にも関心を持
つ傾向があるように思います。
というのも僕は音楽を聴く時、
その曲の楽譜を見ながら聴く方
が見ずに聴く方より好きなの
です。自分分がそうでしたから、
音楽をするすべての人が楽譜を
見ることが好きなんだと思っ
ていました。実際に周りの作曲
の学生もみんなそうでした。と
ころが、演奏をしている友人は
違ったのです。彼はこう言いま
した。「楽譜なんか見たら、耳に
集中でけへんやん!」。この時
初めて、自分とは違った音楽の
愛方をする人間がいることを知
りました。皆さんはどうですか？
これを読んでいる作曲専攻、
コースの皆さん、ぜひ一度は楽
譜を見ずに音楽を聴いてみて
ください。聴こえなかった音や、
感じなかったニュアンスに気が
つくかもしれません。演奏さ
れる皆さん、自分の楽譜だけ
でなくほかのパートの楽譜、つ
まりスコアを見て音楽を聴い
てみてください。見えていた
なかった音や、思い描けなかつ
た構造を発見するかもしれません
よ。



この「構造美がたまらない」ザクの
ガンブラたち

